

Wakaba F.C. コーチの約束

【基本的な約束】

1. まずは楽しむ。
 - ・『指導する』『教える』というのではなく、サッカーを通して子供たちと一緒に余暇活動を楽しむことが大切である。
2. 安全第一を肝に銘ずる。
 - ・どんなに素晴らしい仲間やクラブであっても死者や大事故が起きると、皆の夢が散りクラブの活動が崩壊する。
 - ・常に最悪の事態を想定し、選手の安全第一を肝に銘じる。
3. プレーヤーズファースト
 - ・判断に迷った場合は、例えそれによって手間が少し増えたとしても、『選手にとってはどうか』『選手の将来にとってはどうか』という視点で判断をしたい。
 - ・ただし、この言葉が独り歩きすることにも注意したい。
4. 時間厳守
 - ・集合時刻の5分前には現地に集まる。選手への指導では時間厳守を徹底し、自らも律する。
 - ・遅刻するコーチの指導は説得力に欠け、他のコーチ、選手にも影響を及ぼすことを肝に銘じておきたい。
5. 正しい態度で接する。
 - ・自分が挨拶をすることはもちろん、挨拶をしない子供を叱ることが正しい態度である。
 - ・優しい笑顔だけでは正しい態度とは言えない。服装も指導者としての常識的な服装で指導にあたる。
6. 共同作業
 - ・少年サッカークラブのコーチはサッカーを教える人だけではない。
 - ・ラインを引く人、審判をする人、グラウンドを予約する人、その交渉をする人、そのお礼をする人、近隣地区に対応する人等、多くの人たちに支えられていることを自覚し、表の顔であるコーチと裏方である審判や運営の両面をできるように努力する。
7. 監督の決定は最終である。
 - ・各カテゴリー（各学年）では、ヘッドコーチが中心となり、Wakaba F.C. 指導方針に則って、練習・試合の指揮を執る。その際、適宜、監督やコーチと相談してメニューが組まれることが望ましい。
 - ・しかし、何かトラブルが起きたり、合議できないような事態が発生した場

合は監督の責任によって決定する。

8. 東京都10ブロック関連大会は勝利を優先したベンチワークを行う。
 - ・基本は勝利至上主義的な指導を行わないが、勝利を目指すことも大切である。勝利への欲求は自然なことであるので、10ブロックに関係する大会は勝利を最優先で目指すことを全コーチで統一する。
 - ・例え出場できない選手がいても、やりたくないポジションであっても、この大会だけは勝利を目指すことを優先した指揮を執る。
9. 監督・ヘッドコーチ会議、各カテゴリーコーチ会議を徹底する。
 - ・Wakaba F.C.の基本方針が理解されているか、逸脱するような指導はしていないか、現在の問題点は何かなどを監督を中心に1～2ヶ月に一度集まり確認する。
 - ・また、各カテゴリー内でも指導方針、メニューの確認を同程度行う。
10. クリエイティブな選手の育成を行う。教えすぎはだめ！
 - ・基本方針である『個の育成』でもっとも重要になるのが『考える力』『工夫する力』を成長させることであり、『考えないサッカー選手』を育ててはいけない。
 - ・プレーの結果を叱ってはクリエイティブな選手は育たない。パスをした選手に『そこはシュートだ！』というのはもっともやってはいけない指導である。
 - ・もし言うのであれば試合の切れ間（ハーフタイムや終了後）に『さっきのプレーだけどパスでなくシュートもあったんじゃないの？』と尋ねる（ほとんどの場合、選手はシュートという選択肢があったことは解っていながらあえて裏をかいてパスを選択している。それが、その本人の視点、実力からして最適だと判断しているのである。指導者にそのことを説明できないのが子供である。）。また、もし選手がその選択肢に気付いていなかったのなら、そのアドバイスは自らのプレーを考えるきっかけとなる。

【ピッチの約束】

1. 何はなくとも挨拶をする。させる。
 - ・最も大切な『全員挨拶』を徹底する。
 - ・『今日会ったコーチ全員に挨拶する』ことを徹底する。出来れば父兄、野球のコーチ、学校職員へも出来る範囲で挨拶することが望ましいと伝える。
 - ・コーチ同士も挨拶を欠かさない。相手クラブのコーチ、会場責任者へは敬意を込めて握手することが望ましい。
2. ストレッチの徹底を行う。
 - ・限られた時間で練習、試合を行うため、スムーズにミーティングに移行したい気持ちが生じるが、ストレッチは絶対に省略しない。
 - ・選手がオーバートレーニングにならないよう、また怪我をしないよう、練習時間が短くなったとしてもストレッチを徹底する。
3. 怒鳴らない。
 - ・練習では『励ます』『褒める』『気付かせる』『叱る』を基本とし、決して感情的な発言はしない（練習でも出来ていないことは試合では出来ない。）。)
 - ・安全を無視したプレー、約束、ルールを守れない選手の行動に厳しく叱ることは、成長を促す上で大変重要な指導であり、時には大きな声でその重要性を理解させることは手段としては有効である。
4. 試合型練習（M-T-M型）を行う。
 - ・MTM理論（マッチ・トレーニング・マッチ）という練習メニューの基本を理解し、最初のマッチで課題を見つけ、それをテーマにトレーニング（基礎練習）し、最後に仕上げのマッチで確認を行う。
 - ・U-12の選手はどんなに体が大きくても子供であり、なんと言ってもゲームが楽しく、かつ成長への最良の方法であると位置づけ、試合をたくさん行う。
 - ・試合とは必ずしも8対8の対外試合（親善試合、練習試合）でなくても4対4、3対3、1対2等でも良い。
5. カテゴリー別ミーティングを毎回行う。
 - ・練習、試合、合宿を問わず、カテゴリー内でミーティングを行い、『メニュー』『役割分担』『その他の確認』を行いその日の活動を始める。
6. 対外試合の量はヘッドコーチが方針を出す。
 - ・公式戦、招待大会、練習試合、親善試合へ参加するか否かの最終決定者は各カテゴリーのヘッドコーチとし、試合の目的もヘッドコーチを中心に決める。ヘッドコーチは、参加する試合量等について、適宜、監督に相談する。
 - ・基本方針で定めているように勝利至上主義とならず、あくまでも個の育成を目指す。各カテゴリーの育成プロセスにおいて、柔軟に対応する。